

**SYSTEM FOR PRINTING PRESCRIBED ITEM IN ELECTRONIC
COMPUTER FOR MEDICAL OFFICE WORK**

Patent Number: JP3031965
Publication date: 1991-02-12
Inventor(s): NISHIMURA TOSHIO
Applicant(s): SANYO ELECTRIC CO LTD
Requested Patent: ☒ JP3031965
Application Number: JP19890166129 19890628
Priority Number(s):
IPC Classification: G06F15/21
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To dispense with the collation work of a chart, a prescription, etc., by simultaneously printing a prescribed item and, in addition to it, the relevant information in respective kinds of data inputted from an input means such as a keyboard to a printing paper with a printer.

CONSTITUTION: One prescription in patient data is read from the patient data file stored in an external memory 4, fetched in an internal memory 3 and displayed on a CRT 5. When the data are drug data, the drug name, giving quantity and unit, and further, information to express a taking way, etc., are read as to the individual drug in one prescription, they are fetched in the internal memory 3, and these pieces of information are all printed on a drug bag label, etc., for printing provided as a printing paper 7. Thus, the necessity to transcribe the contents of the chart or prescription, etc., by a medical facility side at a drug giving window, etc., and to execute the collation and confirmation works one by one can be eliminated.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

⑫ 公開特許公報(A) 平3-31965

⑬ Int. Cl.³

G 06 F 15/21

識別記号

3 6 0

庁内整理番号

7165-5B

⑭ 公開 平成3年(1991)2月12日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 医療事務用電子計算機における所定項目印字方式

⑯ 特 願 平1-166129

⑰ 出 願 平1(1989)6月28日

⑱ 発 明 者 西 村 寿 夫 大阪府守口市京阪本通2丁目18番地 三洋電機株式会社内
⑲ 出 願 人 三 洋 電 機 株 式 会 社 大阪府守口市京阪本通2丁目18番地
⑳ 代 理 人 弁 理 士 西 野 卓 嗣 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

医療事務用電子計算機における所定項目
印字方式

2. 特許請求の範囲

(1) 各種のデータを入力する入力手段、該入力手段によって入力されたデータを処理する情報処理部、該情報処理部によって得られた出力データを表示する表示手段、前記情報処理部からの出力データを格納する外部メモリ及びプリントを備えた医療事務用電子計算機において、前記入力手段から入力された患者データの中から所定項目に係わる情報を抽出し、前記所定項目に関連する情報と共に印字用紙に前記プリントによって印字することを特徴とした医療事務用電子計算機における所定項目印字方式。

3. 発明の詳細な説明

(イ) 産業上の利用分野

本発明は、内科及び眼科等の医院あるいは病院、歯科等で使用する医療事務用電子計算機にお

いて、特に診療後に投薬を行う場合の薬剤に係わる情報を薬袋ラベル等の印字用紙に印字する所定項目印字方式に関する。

(ロ) 従来の技術

一般に医院、病院において、患者の診療又は処方箋の受付に際し患者の氏名、保険証番号を含む患者データを入力し、その後その診療又は処方箋の内容に応じて投薬を行う。このとき、薬袋に対して直接薬袋へプリントによって印字する場合、薬袋又は薬袋用ラベルへの印字情報から正確な投与内容は把握できず、薬の調剤や薬袋への収納作業時、常に処方箋(又はカルテ)との照合を行っており、また患者への投与内容の説明、指導時上述と同様常に処方箋(又はカルテ)との照合を行っていた。

(ハ) 発明が解決しようとする課題

前述の従来例では、薬の調剤や薬袋への収納作業時処方箋又はカルテとの照合が必要であり、また患者への投与内容の説明、指導時処方箋又はカルテとの照合が必要であった。そこで本発明は上

記欠点を除去した新規な所定項目印字方式を提供するものである。

(二) 課題を解決するための手段

本発明は、キーボード等の入力手段から入力された各種のデータのうち、所定項目に加えてその関連情報を同時にプリンタによって印字用紙に印字する構成である。

(*) 作用

本発明では、投薬に対する薬袋又はラベル印字時に薬袋又はラベルに投与内容も印字されるため、従来のようにカルテ又は処方箋との照合作業が不要となり、また患者への投与内容の説明、指導時に上述と同様の照合作業が不要となって、作業ミスの減少と共に作業工程数の減少が図れる。

(ハ) 実施例

図面に従って本発明を説明すると、第1図は本発明方式のフローチャート、第2図は同方式を説明するためのブロック図、第3図は同方式の一印字例を示す印字図面を示す。

図面において、(1)は種々の入力データ即ち患

者の氏名、保険者証に基づく患者データ及び診療時の病名、^治診療方法、^治診療のための薬剤名、その説明に係るデータをキーインする入力手段としてのキーボード、(2)は前記入力データを一時記憶するバッファとしての内部メモリ(3)を有する情報処理部としてのCPU、(4)は前記CPUによって処理されたデータを格納する外部メモリ、(5)はデータ表示のための表示部として設けたCRT、(6)は出力データを印字用紙(7)に印字するプリンタ、(8)は入力部、(9)(10)は出力部を示す。

次に本発明の一実施例について説明すると、患者が医療機関において、診療又は調剤を受ける。このとき、患者固有のデータ即ち氏名、保険証番号、生年月日等をキーボード(1)よりキーインすると共に診療行為及び投薬に関するデータをキーインする。これらは、入力部(8)及びCPU(2)を経由して外部メモリ(4)に格納される。上記格納に際し、CRT(5)の画面上でキーインデータを確認すると共にCPU(3)によってデータ処理さ

れた例えば診療点数に基づく診療料又は薬剤料が算出されてそのデータが所謂診療データとして外部メモリ(4)に格納される。

そこで第1図に示すように外部メモリ(4)に格納された患者データファイルからその患者データ内の1処方を読み出して内部メモリ(3)に取り込み、CRT(5)に表示する。この場合、前記処方に薬剤データか否かを判別して薬剤データであれば、1処方内の個々の薬剤について薬剤名称、投与量及び単位を読み出して内部メモリ(3)に取り込み、更に上記処方中の薬剤について飲み方の情報があるか否かを判別し、あれば外部メモリ(4)内の変換テーブルより薬袋ラベル(第2図の例では印字用紙(7)として例示)に印字するため、飲み方を表わす情報を読み出して内部メモリ(3)に取り込む。

更に飲み方についての指定や服薬時の注意事項等があれば、ユーザ定義のコメントを前述と同様に外部メモリ(4)内のファイルから読み出して内部メモリ(3)に取り込む。上記情報を印字用紙(7)と

して設けた印字用の薬袋ラベルに投与内容を全て印字する。この例を第3図に示してあり、患者名に対して投薬に基づく投薬する薬剤名、飲み方を印字する。

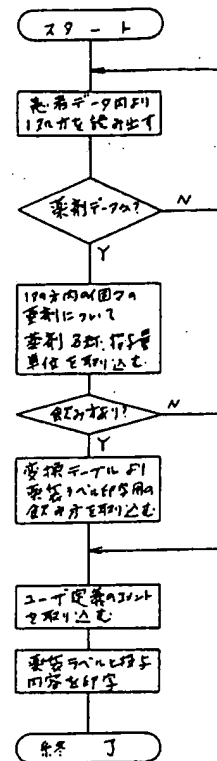
上述の例では右欄に薬剤名(セレキノン錠等)、投与量(6錠)を示してあり、患者氏名の下側に飲み方「1日3回7日分(毎食後30分以内に服用して下さい)」なる記載の印字を行う。

以上の様に本発明の印字方式では、医療用電子計算機において、患者への投薬がある場合に患者データの中の氏名に加えて薬剤名及びその使い方に関する情報をも薬袋用のラベル等に印字する。

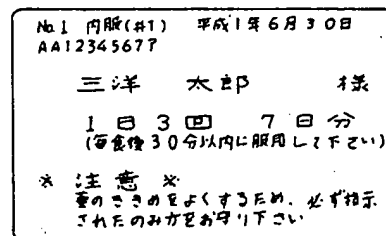
(ト) 発明の効果

本発明によれば、患者が医療機関で診療を受けた後に、投薬がある場合、薬袋の外側に患者氏名に加えて薬剤名を印字すると共にその使い方を併せて印字するので、従来に比べて投薬窓口で医療機関側がカルテ又は処方箋の内容を転記して逐一照合、確認作業をする必要がなく、作業能率が向上して患者の投薬窓口での待ち時間が極減でき、

第 1 図



第 3 図



6錠
1.2g
0.3g
0.5g

本発明方式は医療機関に利用すれば、その効果は極めて大である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の医療事務用電子計算機における所定項目印字方式を説明するためのフローチャート、第2図は同方式を説明するためのブロック図、第3図は同方式の一実施例を示す印刷状態図である。

(1)…キーボード、(2)…CPU、(3)…内部メモリ、(4)…外部メモリ、(5)…CRT、(6)…プリンタ、(7)…印字用紙。

出願人 三洋電気株式会社

代理人 弁理士 西野卓朗 外2名

第 2 図

